

# Oryzias Latipes の観察

(とっても簡単で、とっても難しい魚を知る)

## 1 Oryzias Latipes とはミナミメダカのことです

Oriza (イネ) の Latipes (ヒレの広い) という学名です

形態からカダヤシ目ではなく、ダツ目に分類されています。(鰓弓骨格や間下骨構造による)

2013年にキタノメダカとミナミメダカに別種として分けられました

## 2 メダカを飼育する上で理解すべきこと

金魚の飼い方とちがうことを理解する必要があります

金魚は寿命が20年以上あるが、メダカは1年しかありません。

つまり、メダカは、成長が早く、産卵数が多い魚であることが、教科書に利用される理由です。

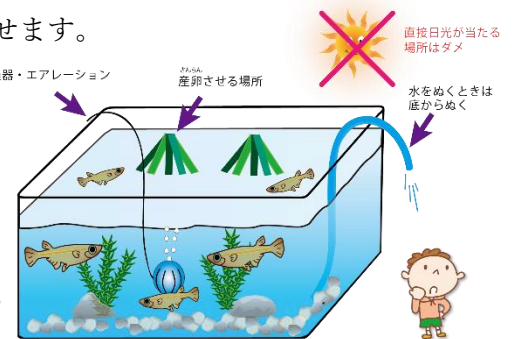
逆に、環境に適応する能力を持っていないので、病気になりやすく、長期飼育が難しい魚です。

## 3 まずメダカを持ち帰ったら、環境の変化を最小に抑えるよう心掛けてください。

1) 袋の中の水と水槽の水を1:1で小さなケースの中で合わせます。

2) ケースを水槽に浮かせて、30分待って温度を併せます。ろ過器・エアレーション

3) 魚だけを水槽に移します。



## 4 メダカの飼い方のコツは？

コツ1 環境を変えないように努めましょう

- ・水の汚れ具合にかかわらず、定期的に換水します。
- ・8リットル程度の水量だと、2日か3日に1回に汲み置き水で、1/4ほどを換水します。
- ・60cm水槽だと、1週間に1/5ほどを換水します。
- ・採卵する水槽では、底砂を敷きません。
- ・砂を敷いて飼育する時は、底砂をかき回さないようにします(3か月ごとに洗います)。

コツ2 エサはこまめに与えます。多すぎるとすぐ病気になります。

- ・1分で食べきる量を複数回与えます。10匹だと1日あたり0.1gの量を分けて与えます。
- ・エサの量が適正でも、水が汚れたら、病気になります。
- ・エサを食べなくなった。卵を産まなくなったら、危険です。

コツ3 病気になると治りません

- ・水草を取り除いて0.5%の塩水で飼育します。
- ・主な病気は、水生菌と寄生虫です。

コツ4 産卵させる場合は4匹(おす1めす3)で8Lが目安です。

## 5 産卵条件について

餌をしっかり食べて、環境が悪くなければ必ず産卵します。

産卵は自然界ではおおむね5月後半から10月までで、25度、日照14時間以上で産卵します。

## 6 産卵生態

気温の上がない夜明けに産卵します。

おすが2匹以上いると、ひれを広げて喧嘩する美しいフィンスプレディングを見ることができます。

めすは、10時ごろまで卵をぶら下げて泳ぎ、それから基質につけます。

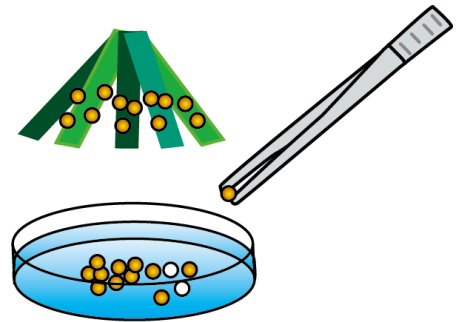


## 7 卵の取り扱いかた

- ・積算温度250度です。 → 25度で10日間でふ化する計算になります。
- ・採卵は、先生が行いましょう。最初の3日間は死卵を取り除くので、月~水で採卵すると良いです。
- ・卵の付着糸を取り除きます。付着糸があると観察がしにくく、またカビの原因になります。
- ・卵膜は弾力性があり、丈夫なので、ふ化直前でなければ割れることはありません。割れる卵は、元々卵質が悪く、ふ化しない卵なので、安心して下さい。
- ・卵を素手でアルコールの付いたウェットティッシュの上で転がすと卵糸が取り除けます。
- ・卵は0.4%程度のきれいな塩水で管理します(500ccの水に約2gの食塩)。
- ・入れ物は何でも良いです。ペトリやタッパが便利です。
- ・カビが感染しないように、バラバラで管理し、カビが発生している卵は毎日除去します。カビの生えた卵は塩水では浮きやすいです。
- ・ふ化まで水換えの必要はありません。

## 8 メダカの卵の観察

- 1) スポイトで1粒の卵をとり、ペトロ皿に入れます。
  - 2) 実体顕微鏡台に黒いシートを置き、数滴浄水を垂らして、ペトリ皿を置くと観察しやすいです。
  - 4) できるだけ、光量を強く、斜め上から当てます。
  - 5) 観察を行います。
- ・温度が高いときはLED光量が良いです。



カビの発生している卵は取り除く

## 9 稚魚を育てる

- ・水量は必要ありません。成長に伴って水量を増やします。
- ・真水で飼育します。
- ・エアレーションは必要ありません。
- ・0.2mm程度の細かな餌を少量、こまめに与えます。
- ・たくさんエサをやると水が汚れて、稚魚が死にます。最初は少なめに与えて下さい。
- ・3日に1度は必ず1/4を換水します。
- ・直射日光には当ててはいけません。

## 10 児童に野生とペットの区別を教えてください。

- ・野生に飼育した個体を放すことはとても良くないことです。  
野外に錦鯉や金魚が増えることは自然が戻った象徴とは言えません。  
オーストラリアではコイが増え、コイヘルペスの導入計画が検討されています。  
自然に放した生き物は決して人がコントロールできないことを伝えてください。
- ・野生のものをむやみにとらないことも大切です。
- ・学校ビオトープから自然に逃げ出すこともあるので、気を付けましょう。

**ヒメダカはペットです。コカナダモやオオカナダモも外来種です!**

**野外に放さないようにしてください**

**※本事業は株式会社キョーリンと神畑養魚株式会社のご協力で実施しています  
事業を続けるためにも、報告書とアンケートの提出をお願いします**

※問い合わせ先 姫路市環境政策室 電話番号 221-2468